

税関庁舎は昔も今も横浜港のシンボルになっています。

こちらでは初代から三代（現在）にわたる庁舎の移り変わりを紹介しています。



### 初代庁舎



1873~1883（明治6~明治16）年  
現神奈川県庁舎の位置に建てられた石造り三階建ての本格的な欧米建築様式の建物。  
設計はアメリカ人建築家 R.P.ブリジェンス氏。  
1883（明治16）年、庁舎新築・移転にともない県に約八万円で譲渡されました。

### 2代目庁舎



1885~1923（明治18~大正12）年  
日本大通の突き当たりに建てられた煉瓦造り二階建ての建物。ギリシャ式建築様式が使われていたり、建物中央に六角の塔がそびえるなど、横浜港で異彩を放っていました。  
1923（大正12）年9月1日に起こった関東大震災により倒壊しました。

### 3代目庁舎(改修前の現庁舎)



1934~2003 (昭和 9~平成 15) 年

「ロマネスク」などの西欧建築様式が混在するエキゾチックな建物は「クイーン」の愛称で広く親しまれており、神奈川県庁本庁舎の「キング」、横浜市開港記念会館の「ジャック」と並び「横浜三塔」と呼ばれています。

### 現庁舎



2003 (平成 15) 年～

歴史的建築物である3代目庁舎の景観を生かしつつ、現代の建築技術を取り入れて設備を全面改装。

歴史文化を物語り、情報化社会の高度な業務にも対応できる、新たな時代の横浜にふさわしい建物に生まれ変わりました。